

報恩講のころえ

報恩講とは？

報恩講とは、一言でいえば、親鸞さまのご法事のことです。七〇〇年以上前から続く、真宗では最重要行事なのです。門徒にとっては特別な意味を持つものなのです。

三つある報恩講

まず、「ご門徒各家でつとめる「通り報恩講」。西教寺では例年十月一日よりはじまります。ほとんどのご門徒がつとめられます。次に、全国の真宗各寺院では「お取り越し報恩講」をつとめます。「ご節日を年内に取り越して行つのです。そして「本山(西

本願寺)では、一月十六の正当日の一週間前より、「ご正当(御正忌)報恩講」がつとまります。本来は本山に参詣すべきものです。しかし、本山へ参詣できない人のために、「ご法義の厚い安藝地方では、各寺院でも「ご正当の法座を行っているのです。

心がまえ

それでは、どのような心構えで報恩講をお迎えすればよいのでしょうか。親鸞さまは、仏さまの教えを聞き、心豊かに日々を送れるようになった人は、お育てに感謝して、少しでも仏法が弘まるよう、また世の中が安穩になるよう、できることを「ご報謝しなさい」と言われています。「ご家族、ご友人など、一人でも多くの方を誘って「ご縁におあい下さい。しかし、真宗のご縁はあるんだけれども、まだまだお寺に足が向かない人、心に安らぎがえられない人はどうするかについて、

未安心の行者にいたりてはいかてか報恩謝徳の儀これあらんや。しかのごときの輩は、この砌において仏法の信・不信をあひたつねてこれを聴聞してまこと信心を決定すべく... (蓮如上人『御俗姓 二二三頁)

と、蓮如さまがおっしゃるように、そのような人も、年に一度のこの報恩講を大切な機縁として、心の垢を洗い流し、如来さまの心を聞きひらく「ご縁としましょう」といふことです。

一軒あたり三〇分

一昨年から、わずかながらも一軒あたりの時間を延ばしました。

時間の前後に「理解を

「順番は分かるが、大体の時間が分からないものか」という声にお応えして、「朝八時から始まって一軒三〇分を目安に廻ります」と書きました。しかし当日急に変更があった時に「まだ来ない」とか「もう来たのか」ということになり、善意のつもりが逆効果にもなりました。急な変更が重なったり、「ご門徒が亡くなられたりする

と一〜二時間は前後してしまします。どうか前後一〜二時間までは「ご容赦下さいませよう」お願いいたします。



「ご都合の悪い方は、良い日時にお参りさせていただきませう。加えて、当日順番がくるつてはどうか、当日順番がくるつてはどうか、困ると言つ方も、「ご遠慮なくお寺まで「ご連絡下さい。

報恩講のチエツクポイント

報恩講を迎える前は、お仏壇のお掃除をしましょう。

おみがき(お掃除)

めつきしてないしんちゅう製の輪燈・おりん・仏飯器などは、仏壇店などで売っているしんちゅう磨きなどで磨きま



す。家族みんなでおみがきしましょう。

おかざり

まじごろをお供えするのですから、造花はやめましょ。



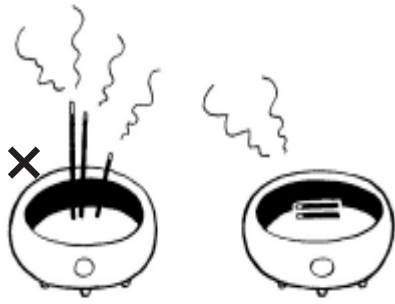
ローソク



普段横着して電気のローソクだけの人も、この日は本物のお光り（心にも）ともじましよう。新しいのを出しておいて下さい。できれば、朱口ウ（赤いローソク）で、マッチと灰皿をお忘れなく。

お香

できるだけ良い香りのものにしてきましょう。香炉は灰をならしておきましょう。マッチの燃えカスは香炉ではなく灰皿に入れるものです。



線香は立てずにねかせます

お仏飯

これがなければ始まりません。両脇掛け（親鸞さま・蓮如さま）にもお忘れなく。



お供え物

日常つねにお供えるものはお仏飯だけです（水・お茶・コーヒ・お酒・たばこ等はそなえません）。また、頂き物をます仏さまにお供えするつるわしい習慣を大切にしましょう。



報恩講などの法要仏事の際は、お餅やお菓子等を適宜お供えします。お供えする順番は餅・菓子・くだもの順です。また、お供えは、供筒（華足ともいう）や高杯に盛りますが、この辺で多い三方向が金盞（金色）、残りの三方向

が黒の供筒は、金が正面に来るよう（黒が見えないように）（するも）のです。



このような感じで、黒いところが見えていた場合が多いのです。

御文章

「出し忘れ」をしたり、「上下逆」になっているのが御文章。お持ちでない方は、お寺にご相談下さい。



ちなみにお花、仏具、法事の「お仏前」なども含めて、お供え物は皆同様の方向にを向けるのが作法です。お供えは私の手柄では

なく、「おかげで」という心を表しているそうです。

お焼香道具

香炉を乗せるお盆・抹茶を忘れず。



お念珠・お経の本

お念珠、お経の本を忘れずに。また、これらは直接地べたに置けません。

おつとめ

お経はいつしよについてあげます。老眼鏡を忘れずに。昨年から、少しはお正信傷もゆっくりになったと思いますので、できるだけ多く方を誘って「縁にお会い下さい」。

真宗には必要ないもの

・お位牌（過去帳に書き換えま

しょう）



・神棚・お札・お守り・破魔矢

他宗の本尊



諸難を恐れ、これらのものに束縛されて生活せずとも、仏さまにつつまれて、念仏申す日暮しを送る者には、他は必要なくなるので、狭い宗派根性で言うのではありません。神棚を置かなかった私どもの先祖、安芸門徒の力強い生きざまに学びたいものです。とはいえ、まだよく意味が分からないとか、処分の仕方が分からないとかいう方、何でも遠慮なく相談下さい。